

ウォッカはウィスキーに勝てるか

三 春

大昔、新橋に「ベリョースカ」というロシア専門の雑貨店があった。新宿の「スナガリ」、高田馬場の「チャイカ」、渋谷の「ロゴスキー」、神保町の「バラライカ」や「サラファン」など、亡命ロシア人や満州引揚者が腕をふるうロシア料理店も多かった。こうした店には「スタリーチナヤ」や「スタローヴァヤ」といった庶民的なウォッカが置かれていたものだ。

最近、ありったけの知人に毎日一斉メールし続けているお爺さんから、「誕生日祝いにロシア人からベルーガを頂戴した」というメールが舞い込んだ。

ベルーガとはロシア産の（にしては珍しい）高級ウォッカで、最近では日本でも入手できるとはいえ、一般的ウォッカの数倍～数十倍の価格を覚悟すべきだろう。その名はオオチョウザメ（Белуга=ベルーガ）に由来している。APECのレセプションやノーベル賞受賞式の晩餐会でも出され、英国王室やハリウッドでも愛されている限定生産品らしい。

私のはサントリーお徳用 1800 ml 2000 円。あれこれ混ぜて「血まみれメアリー」や「モスクワのラバ」もどきを作る。こういう健康的な(?)カクテルにも向いていることがウォッカの利点だ。若い頃はロシア代表団の歓迎会でウォッカ一気飲みにも付き合ったけれど、愚かな酔がりはもう卒業した。

世界の一番人気は何と言ってもウィスキーだ。ウォッカ大国ロシアでさえ、インテリ層や若者のウォッカ離れでウィスキーの消費量が急増した。しかも、世界のウォッカ市場におけるロシア産はごく僅かで、嘗てはロシア皇帝御用達だったスミルノフ（ロシア革命でフランスに亡命し、米国さらに英国に買収された）やアブソルート（スウェーデン）など西側メーカーに圧倒されている。

ところが今年、ロシアのウォッカ製造会社大手が巻き返しを図りだした。「ルースキー・スタンダルト」は日本での上位5位入り（キリン、アサヒ、サントリー、サッポロに次いで）を目指し、「ベルーガ」も日本に上陸する（した?）との噂だ。

ところで、川柳会での私の号は^{ウォッカ}火酒である。なぜか川柳には酒に因んだ柳号が多い。
すいが すいしん めいてい ウィスキー
酔雅、酔深、酔帝、我々好……